

「土砂災害について考える」

福井県 あわら市金津中学校 2年 ^{やまと あいか}山本 愛華

土砂災害。その言葉を聞いて私が思いうかぶのは、広島県で 2014 年 8 月 20 日におきた大規模な土砂災害のことです。この土砂災害は死者 77 名、負傷者 44 名ととても大きな被害をもたらしました。私は、最初このニュースを見たとき、自然災害とは怖いものだ、とっていました。今まで通り、普通の生活ができなくなる。そんなことは、とても想像できません。しかし、その時は、大変なことだと思いつつも福井からは遠い場所だし、福井ではこんなことはおこらないだろうとっていました。

しかし、12 年前この福井でも土砂災害がおきたのだと両親から聞いて知り、とても驚きました。この土砂災害は、私がまだ 1 才のとき、2004 年 7 月 18 日の福井豪雨によりおこりました。死者 4 名、負傷者 19 名、66 棟もの建物が全壊するという大きな被害をうけました。私は、小さくて全く記憶にないので、その時の様子を詳しく知るために、両親や祖母から当時の話を聞きました。私の住んでいる家の周辺では、被害はなかったようですが福井市や鯖江市などは被害が大きかったそうです。

祖母は美山にある親戚の家に、水害のお見舞に行ったそうです。そして、その時の様子をこう語ります。「道路は壊れて形はなかった。川には大量の土砂や大きな岩が流れこんでいた。それに家がほとんど壊れて、屋根と骨組しかない家が何軒もあった。福井市ではごみが流れて悪臭がして、食べ物を買えるような状態ではなかった。」

と。こんな事は私には想像もできないようなことだと思いました。また、中学生は校舎に入った泥を自分達で取り除く作業をしていたそうです。きっと、大変だったと思いますが、自分達の使う場所は自分達できれいにしてという気持ちで、そういうことができたんだと思います。

父もまた、被害を受けた鯖江の親戚の家に、土砂を取り除く作業を手伝いに行きました。その親戚は、幸い家は被害をまぬがれましたが、山の近くだったその家の小屋には、大量の土砂が流れこんでいたそうです。隣の家は家の中まで土砂が流れ、家具などはほとんどだめになってしまったそうです。もちろんその家の前の道路もこわれていて、車は通れず途中からは歩いて、その家まで行きました。

被害の大きさをある程度覚悟していた父も、実際その場に行ってみて、想像以上にひどくとても驚いたと言っていました。土砂は長ぐつの上の方まであり、何人も人がスコップを使い取り除いてもなくなりませんでした。また、夏だということもありとても暑く、臭いもひどく、とても 1 日では取り除くことができなかったと話してくれました。父は、その当時の様子を 10 年以上経った今でも、鮮明に覚えているようです。

福井豪雨による土砂災害で、大変なことやつらいことはたくさんあったと思います。でも、その中で支援に来たボランティアの人達や、地域の人達と助け合ったことで、絆のようなものも、うまれたのではないかと 생각합니다。

自然災害は、私たちに防ぐことはできません。そして、いつ起こるかわかりません。けれど、それに備えて様々な対策をしておくことはできます。例えば、砂防ダムというものです。これは、山などからの土石流をためてその流れを緩やかにし、町や村にできるだけ被害をあたえないようにするために設置されています。しかし、私たちの身近なところでも災害対策をすることができます。土砂災害など、自然災害がおきたときの、避難場所を確認しておくことです。また、地域や学校での防災訓練に積極的に参加することです。でも、ただ参加するだけでなく、しっかり本当におきた場合を想定してすることが大切だと思います。また家でも、水や食糧などを常備しておくこと、避難袋を準備しておくことも大切だと思います。

私は、今まで福井ではそんなに大きな自然災害はおきないだろうと、災害に対して少し軽い気持ちでいました。しかし、今回福井でも大規模な土砂災害があったと知り、その気持ちは変わりました。私は、これからあわら市のハザードマップを一度確認したり、身近なことからできる、自然災害の対策をしたりしてみようと思いました。そして、自然災害について考える、良いきっかけになったと思います。